

注意点1



理論

トライアドに9th音を加えた
応用ポジションを覚えるべし!

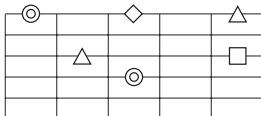
まずは、このメイン・フレーズの使用ポジションを確認しよう(図1)。このフレーズは、トライアドに9th音を加えているのがポイントで、1～3小節目が4弦ルート、4小節目が5弦ルートになっている。9th音を加えることで、フレーズに独特な哀愁感を与えることができるので、トライアドの応用ポジションとして、ここでぜひ覚えておいてほしい。ちなみに、トライアドのメジャーとマイナーは3rd音のみが半音(1フレット分)異なるのだが、著者は“小指が同じフレットに弦跳びするのがメジャー”“人差指が同じフレットに弦跳びするのがマイナー”という形で覚えている。参考にしてほしい。

図1 トライアド+9th音の応用ポジション

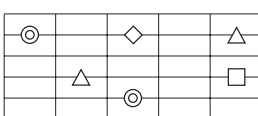
◎ルート音 △3rd音 □5th音 ◇9th音

メジャー・トライアド+9th音

・4弦ルート(メイン・フレーズ1&2小節目)

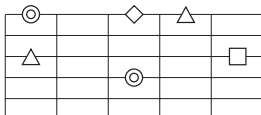


・5弦ルート

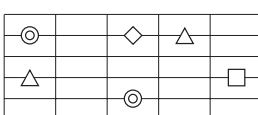


マイナー・トライアド+9th音

・4弦ルート(メイン・フレーズ3小節目)



・5弦ルート(メイン・フレーズ4小節目)



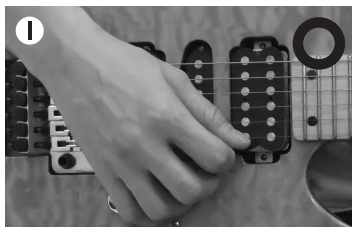
注意点2



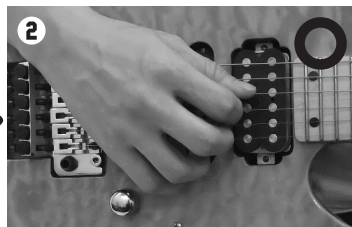
右手

スキッピングでは
フォームを一定にしよう!

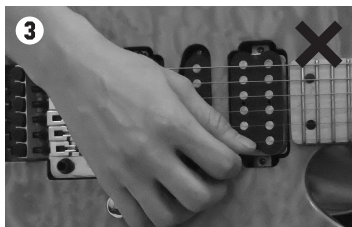
スキッピング・フレーズでは、弦を1本以上またいでピッキングするため、とにかく正確性が必要になる。基本的に弦移動を伴うピッキングは、フォームを一定に保ちながら行なうことが大切だ(写真①&②)。瞬時に弦移動しなくてはいけないからと言って、手首のスナップを利かせてピッキングすると(写真③&④)、移動した弦上のフレーズを素早く弾くことができないので注意すること。確かに1音だけ弦跳びして、すぐにもとの弦に戻るようなフレーズでは、手首のスナップを利かせたピッキングを行っても良い。しかし、弦跳びに気を取られ過ぎて無理なピッキング・フォームで弾き続けると変な癖が付いてしまうので気をつけよう。



1弦をピッキングする時点で、3弦を狙っておこう。



1弦をピッキングしたフォームのまま3弦に移動すること。



1弦をピッキングしたあとに……



手首を返して、3弦を弾くのはやめよう!

注意点3



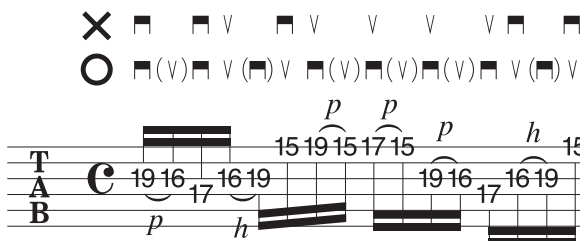
右手

リズムカルな演奏のため
弦跳びの空振りをマスター!

このメイン・フレーズでは、空振りも大きなポイントだ。例えば1小節目1～2拍目の3弦→1弦の移動では、ハンマリング時にダウンの空振りを入れて1弦をアップで弾くのが正しい弾き方になる。しかし、弦跳びの空振りに慣れていないと、空振りを入れて1弦をダウンで弾いてしまうので注意しよう(図2)。メイン・フレーズのようなスキッピング・フレーズでは、16分音符のリズムに乗ってリズムカルに演奏しなくてはならない。だが、ハンマリング時に空振りを行なわないと、リズムに正確に乗ることができなくなるのだ。さらに、1弦をダウンで弾いてしまうと、それ以降のピッキングの順番も乱れる【註】ので気をつけよう。

図2 弦跳び時の空振り

・メイン・フレーズ1小節目



空振りを的確に入れて、16分音符のリズムに乗ろう!

【ピッキングの順番も乱れる】オルタネイトの規則性が乱れると、リズムにノリづらくなる。“順番なんて適当だけど、何となく弾けているからOK!”という風に考えず、1音1音確認しながら練習することが上達への正道だ!